



episode.06

## 吉田の岳参りと瀬風呂

話し手 まんてん平家の里協議会 語り部  
ちかま とくじ  
近間 十九二さん (昭和11年6月10日生)

たなか たけぞう  
田中 武造さん  
たなか ひでし  
田中 秀志さん

聞き手 鹿児島県立屋久島高等学校 1年  
下野 美結 平石 莉緒 甲斐 瑠々花  
柴 悠里 山路 未玲 藤原 由梨亜

### 「先人から受け継がれてきた岳参り」

吉田の岳参りは1.165mの吉田岳に登る行事です。岳参りの起源は不詳ですが、吉田岳の改修工事をしていたら、和同開珞が見つかったので350年くらい前から岳参りが行われていたと推測されます。吉田岳には春の旧暦4月8日、秋の旧暦9月8日までにお岳参りをします。今は、一湊歩道から吉田岳の下まで林道があるため2時間あれば登れるので、往復4時間ほどで吉田岳に登ることができます。普段登るときは普通の格好で登り、門限様の近くなったら作務衣を着て参拝します。耳に手を添えて「神様に登ってもいいですか」と言いながら、民太鼓を踊りながら登ります。吉田は他の地域と違い、帰って来るときにホラ貝を吹いて帰ってきたことを知らせます。帰ると、区民の一部の方が「ご苦労様」という意味で、ツノマキをこしらえて1人に3～5個用意してくれます。

### 「岳参りの願いとは」

土石流などの災害が起きないようにと集落の安全を、穀物がよく育つようにと五穀豊穡を、トビウオが取れるようにと漁業の安全と豊漁を、はやり病が流行らないようにと無病息災を岳参りでお祈りします。今後も集落に災害がないように岳参りを引き継いでいきたいと思っています。



海岸から浜砂を採ってお供えします



### 「昔の人の知恵」

瀬風呂は明治時代からありました。昔は病院がなく、農作業で鎌などで手足を切ったりした時に生傷を治す所がないので、集落の皆さんの知恵で海水につけていました。すると、数日後には綺麗に治っていました。それから、よもぎを揉んで生傷に当て、そこに瀬風呂のお湯を少し浸して傷を治していました。

昔の女の子は頭にシラミがいて、かゆくてかいてしまい頭がただれていたのが、学校の先生が瀬風呂のお湯をかけて治していました。現在は、各家庭にお風呂があるので必要はありません。私は、3年前くらいに2階から落ちて大きな怪我をしました。しかし、2～3ヶ月の間、瀬風呂に入っていたら歩けなかったのが歩けるようになり、今では元気に仕事もできるようになりました。私は瀬風呂で怪我だけでなく、心の病も治すことができました。

### 「瀬風呂のレシピ」

瀬風呂は8か所あって、そのうちの4か所は今でも使うことができます。自分たちで作ったものではなく、花こう岩がえぐられてできたものです。大きな薪と丸い石(3～5kg)を集め、石の上に薪を積み、火をつけ1～2時間石を焼き、その温まった石を風呂の中に入れて温めます。当時は、温度計のない時代ですので正確には分かりませんが、家の風呂と大体同じ温度です。石を入れたら、どんどん熱くなるので水を足しながら調整していきます。

瀬風呂を継続していくためにも、都会の人がトンボレ(地元の言葉で瀬風呂)に入ってみたいと思った時に、いつでも体験できるようにしていきたいです。

